

「認知症を理解し、地域で支えるフォーラム」を終えて

充実した内容のあるフォーラムでした

「認知症を理解し、地域で支えるフォーラム」が
11月10日(土)13時30分～16時30分予定通り開催されました。

第一部 長谷川先生の講演「認知症を理解し、地域で支えるには」。パワーポイントを使ってとても分かりやすく話していただきました。(レジメ希望の方には差し上げます)

第二部 「体験を聴く」認知症の人の作文と子供の作文「おじいさんは冒険家」
丸山けい子さんと片野大樹君の声で録音したものを映像とともに流した。

第三部 パネルディスカッション(発言順)

司会者	山口研一郎氏	やまぐちクリニック院長
パネラー	山本泰代氏	認知症の人と家族を支える会代表
	三輪れい子氏	高槻介護支援専門員連絡会
	松永美保子氏	NPO 法人きらら理事長
	村上宏三氏	大阪府認知症介護指導者
	富永正夫氏	富永クリニック院長
	渡邊 實氏	高槻市高齢福祉課
	鈴木通義氏	北阿武野地区福祉委員
	上床佳代氏	阿武山地区包括支援センター管理者

一人3分と短い時間だが良く準備され、要約された貴重な意見が8人からされ、長谷川先生も評価して喜んでおられた。参加者数は222人と満員でした。よくする会関係48名介護関係者が3分の2、その他認知症家族、行政、医療、NPO団体、市議員等の方々が参加されました。

* まとめとして6つの提案をアピールしました。

- ① 地域で見守りや相談に乗れる認知症サポーター養成の充実を高槻市に要請する。
- ② かかりつけ医が「認知症相談医」として窓口となり、早期対応をサポートできるよう医師会や高槻市に提案して行く。
- ③ 徘徊する高齢者を保護し支えるための「徘徊SOSネットワーク」を立ち上げるよう、介護関係者、警察、消防署、公共交通事業者、地域福祉委員会等に提案する。
- ④ 認知症であることを安心して言える地域社会の実現のため、認知症理解のための学習と予防のための健康診断に取り組むよう保健所や地域包括支援センター等関係団体に提案する。
- ⑤ 認知症本人や家族が孤立・孤独にならないために支援する仕組みを推進する。
- ⑥ 認知症ケアの質の向上や専門性を高めるための研修を充実する。

そして、今後地域で認知症の人とその家族を支えるためのネットワークを作っていくため、実行委員会は引きつづき活動することが表明されました。また、今回のフォーラムは録音・録画され、報告集を出すことが報告されました。